

泉北教組・泉大津教組 学習会

ICTと子どもと授業づくり

11月26日、高槻市の小学校教諭、大瀬良篤さんをお招きして、「ICTと子どもと授業づくり」をテーマに学習会を開きました。ICTに限らず、子どもや私たちを取り巻いている今日的な課題、タブレット端末の功罪、集団づくりで大切にきてきたことなど、多岐に渡ってお話いただきました。

大瀬良さんは、「デジタルかアナログかではない。とした上で、タブレット先進国では、使い方によって、学力が低下

している。アナログの方が学力が上がる。こうした研究結果をふまえた上で、子どもたちの成長・発達をうながすツールとしてタブレットなどを活用



用できれば、有意義なものになる、としています。

そして、タブレットの活用について、今、大切にしたいことは、

・デジタルリテラシーを育てる観点

・タブレット活用が先ではなく、授業のツールとして活用しているか

である、と指摘しています。実際に学級でおこった出来事を使っての情報モラル

教育など、子どもたちの心に残る実践も紹介していただきました。

集団づくり

ICTを授業でどのように使ったか(一部抜粋)

ア)国語

・漢字学習の際に、書き順を示すアプリを各タブレットに送り、確認しながら漢字の練習を行う

・そのアプリを利用するかどうかの判断は子どもたちに委ねる

イ)社会

・アナログ地図とデジタル地図の併用

・最新 DATA はタブレットで、これまでの統計は副読本などのアナログで

▶ここから子どもたちには、アナログの限界とそれを補完するデジタルの存在を教える(デジタルがアナログよりも優位ということではなく)。アナログとデジタルの併用方法の視点

・みんなで吉野ヶ里遺跡をフィールドワークしよう

▶授業で学習した後に、子どもたちが「吉野ヶ里遺跡行ってみたい」と言った後に提示(子どもたちは自分のタブレットでアクセス)

・最新 DATA をアナログに書き込み、DATA をアップデートする

・社会科の調べ学習で使った際に感じている傾向

▶学力的にしんどい子ほどタブレットを利用▶とにかくコピペ▶発表の時に自分のノートが読めない▶周りの子がサポートしても読めない▶わからない▶何を行っているのかわからなくなる▶

でも次の調べ学習もタブレットで調べる(タブレットの持つ依存性?)

ウ)算数

・そろばんアプリを利用して、そろばんの授業をする。

エ)理科

・タブレットのカメラ機能を利用し、学習した内容に即した写真を班で取ってくる。

▶昆虫の「あたま・むね・はら」がわかるように写真を撮ってくる

かげの写真を撮って、太陽の方向がわかるように説明する

オ)図工

・本番前のシミュレートとして、タブレットで絵を描いたり、設計したりする

→打ち上げ花火の点描、運動会の絵など

・子どもたちの声として、初めから絵の具を使うよりも、タブレットで練習してからの方が、イメージがしやすい、安心できるとの声

女性部 ガーデニング

12月3日(土)、毎年大好評の『泉北教組女性部ガーデニング』が開かれました。今年もリル・シュル・ラ・リングさんの寄せ植えをしました。

講師の先生にていねいに教えてもらいながら、とてもかわいい植木鉢に8種類もの色とりどりの植物を植えていきました。年末からお正月にかけて飾っておくのにぴったりのステキな寄せ植えが出来上がりました。

講師の先生からお世話の仕方も教えてもらいました。うまく育て

ると5月頃まで楽しめるそうです。

寄せ植えが出来上がった後は、ひとときのティータイム。おいしいお菓子とお茶をいただきながら、次はおしゃべりに花が咲きました。

参加者からは、「今年も楽しみにしていました。」「また来年も参加したいです。」などの声が聞かれました。



テーマにはなかった集団づくり、その中軸に常に据えている自治活動について、話がありました。

「答えや結果を早く出せ」の風潮が高まる社会だからこそ「ゆっくりと自分で考え、自分を探すことのできる時間」を保障したい、という言葉に、学校教育とは何かを今一度



考えさせられました。